

JPS KAKENHI Grant Number JP19K00137

「ウィンダム・ルイスのメディア論—アートとイデオロギーの交錯」主催公開研究会

後援：意匠学会

# ウィンダム・ルイスとメディア

日時：2023年7月15日(土) 13:30-16:00

会場：文京アカデミー茗台7階 学習室 A

研究会事務局：municipalart@atomi.ac.jp

13:30-14:00 基調報告：要 真理子（研究代表者）

14:05-14:45 特別講演：ポール・エドワーズ（ウィンダム・ルイス記念財団）

14:55-15:25 コメンタリ：田中 正之（国立西洋美術館）

15:25-16:00 質疑応答（司会）：前田 茂（京都精華大学）

\*当日は講演内容の日本語訳を配布します。（質疑応答では逐次通訳有）

20世紀初頭に英国唯一の前衛芸術運動ヴォーティシズムを率いたウィンダム・ルイスは、第一次世界大戦前にイタリア未来派への共鳴、戦争体験を経てナチズム擁護の発言からファシズムへの接近を見せた後、メディア論におけるグローバリズムの先駆的思想を提示した。この研究会では、ルイスのメディア論について、彼の美術作品や著作といった具体的事例を参照しつつ美学的/感性論的な観点から再検証する。

参加申込みは以下のリンク/QRコードから Google フォームへアクセスしてお願いします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdrNtyv-OfYeo71xPXA-xG7luLUNy76pP7dHhHeFY9XERD989g/viewform>



\*申込みは7月14日17:00をもって締め切らせていただきます。

## ポール・エドワーズ (Prof. Paul Edwards)

ウィンダム・ルイス記念財団評議員長、バース・スパ大学名誉教授

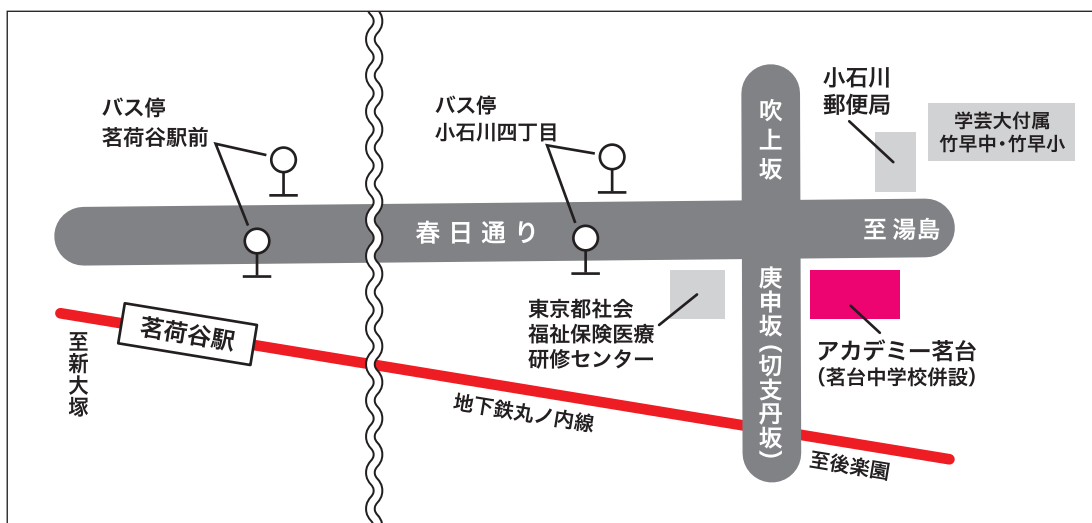
英国モダニズムの研究者として知られ、ケンブリッジ大学、ロンドン大学を経て、バース・スパ大学、イースト・アングリア大学で教鞭を執る。著書に『Wyndham Lewis: Painter and Writer』(Yale University Press、2000年)他多数。ナショナル・ポートレート・ギャラリー(ロンドン、2008年)とホワン・マルク財団(マドリッド、2010年)で開催されたウィンダム・ルイスの大規模な回顧展を組織した。オックスフォード大学出版局のルイス選集では監修者を務め、再編集した第22巻『時間と西洋人』が2023年度に刊行となる。英国のモダニズムについては、ルイスをはじめヴォーティシズムの作家たちのほか、T・E・ヒュームやC・R・W・ネヴィンソンなど、第一次世界大戦時の文学と批評に関して、またトム・ストップードの戯曲やイアン・マキューアンの小説といった現代文学についても数多くの論考を発表している。

## 田中 正之 (たなか まさゆき)

独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館長

1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了後、ニューヨーク大学美術研究所で学ぶ。専門は西洋近現代美術史。1996年より国立西洋美術館研究員、『マティス展』(2004年)、『ムンク展』(2007年)などを担当。2007年に武蔵野美術大学造形学部准教授、2009年に教授となる。2011年より同大学美術館・図書館館長、造形研究センター長も務めた。2021年4月より現職。著書に『近代の都市と芸術7 ニューヨーク——錯乱する都市の夢と現実』(竹林舎、2016年)、『現代アート10講』(武蔵野美術大学出版局、2017年)、『西洋美術史』(美術出版社、2021年)、『西洋絵画を知る100章』(平凡社、2022年)など。

## 文京アカデミー茗台7階学習室A (文京区春日2丁目9-5)



丸の内線茗荷谷駅より徒歩10分

都営バス都02系統「小石川四丁目」より徒歩3分